

様式第2（第9条関係）

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和7年 7月8日

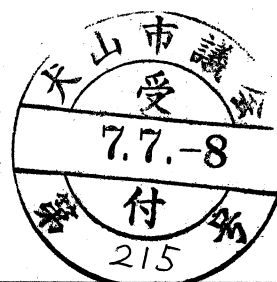
犬 山 市 議 会

議 長 大 澤 秀 教 様

議員名 鈴木 伸太郎

下記のとおり、展示会の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和7年 7月 1日(火) ～ 7月 2日(水)
(2) 場 所	①東京都内 ②東京ビッグサイト
(3) 形 態	会派 () : その他 (鈴木のみ)
(4) 内 容	① 都内繁華街にて海外インバウンド状況調査 ② 自治体公共WEEK 報告書別紙
(5) 成果・提言	報告書別紙



出張報告 令和7年7月1日（火）～7月2日（水）

東京ビッグサイトで開催された展示会「自治体公共フェア」で情報収集するとともに、都内の外国人インバウンド集積地を数か所訪問、その状況を確認した。

現・道路管理センター相談役、元総務省（三重県・神奈川県・堺市出向経験あり）、関学大教授、JIAM 教授でもあった松藤氏にアテンドを依頼、詳しく解説をいただいた。

1 日午前9時まで、友好都市の富山県立山町で山開きの式典があり、副議長としてそちらに参列した後東京に向かったため、行程は【富山→東京→名古屋】となっている。

○海外インバウンド状況把握のための繁華街・商業施設の調査見学

銀座（三越・銀座通）、虎ノ門ヒルズ・麻布台ヒルズ・六本木ヒルズ・新宿（歌舞伎町・大久保・伊勢丹）、原宿（表参道・竹下通）、渋谷（無印良品・パルコ・公園通・スペイン坂）等を、急ぎ足で4時間ほど見て回った。

銀座、百貨店は圧倒的に海外インバウンドが多く、ざわついた雰囲気。以前の銀座の面影、落ち着いた空気は感じられない。銀座通も同様、今回は5丁目～1丁目を通ったが、1丁目の銀座通に大型バスで乗り付け、5丁目～3丁目あたりでショッピングをするパターンが多いように見受けられた。以前はアジア系の旅行者が観光バスで来訪、格安小売店や家電量販店で「爆買い」することが社会問題になっていたが、今回は、国籍関係なく、海外インバウンド旅行者は誰もが円安も背景にして高級品を買っていくイメージ。銀座と言えば、日本人には憧れの場所であったが、これだけ外国人が押し寄せてくると、かつての銀座のイメージはもはや無く、それは「銀座」というブランド力の低下にもつながるリスクに直面する課題だと感じた。

次いで、森ビルが開発した3か所のいわゆる「3大ヒルズ」（虎ノ門・麻布台・六本木）を見学。東京メトロ日比谷線でつながっており、昔から高級イメージの強いエリアである。買い物・観光需要だけでなく、再開発による高所得者向け居住地、オフィスの整備もされていることもあり、銀座と比べると落ち着いた雰囲気が漂う。ただ、海外インバウンドはここでも多く、特に虎ノ門では日本人より海外旅行者の方が圧倒的に多いように感じた。麻布台は日本の伝統的な食や工芸を意識した店舗が多く、価格帯は高額。ここを訪れる旅行者はハイエンド層であり、店舗構成もそちらにシフトしていると思われる。ここも外国人が主な客層だった。六本木は各ヒルズと比べると閑散としている。テナントは海外ブランドが主体のためか、日本人客が多い。

新宿方面へ向かい、歌舞伎町北端の大久保病院あたりから新宿駅方面を目指した。風俗産業で特異な地域であり、また、新宿区は住民登録している外国籍の国籍が100を超える多国籍な地域でもあり、混とした雰囲気を感じた。その歌舞伎町にも、インバウンドは老若男女問わず続々と押し寄せていた。子供連れで来ているのも普通で、そのあたりは日本人との感覚の違いを思う。たしかに海外の繁華街よりも治安は良いのかもしれない。実際、ホ

ストクラブやホテルが立ち並ぶ路地でも、路上駐輪を取り締まる警備員がいたりして美化や環境整備が実施されており危険は感じなかった。

次に向かったのは原宿ゾーン、ここもやはり海外インバウンドが日本人を凌駕している感じ。その中で竹下通と表参道をチェック。竹下通は銀座やヒルズと違い若者カルチャーのエリアであり、インバウンドも若年層が目立つ。逆に国内でも指折りの高級ブランドが並ぶ表参道は銀座と同じハイエンド層のイメージ。どちらも日本人より外国人の方が多い。若者文化の竹下通、都内でも格別のおしゃれな都市空間表参道、そういった昔のブランドイメージが維持されていくのか心配。

最後に渋谷地区を訪問。再開発が続く渋谷だが、相変わらず道路、通路の幅が狭く、非常に人口密度の濃い繁華街であることに変わりはない。スクランブル交差点が訪問ポイントのひとつのようで、みな、スマホを掲げて交差点渡っていく。ハチ公も撮影ポイントだった。公園通は外国人ばかりのイメージ。通り沿いに無印良品の旗艦店があるが、買い物客はほとんど外国人、近隣のパルコも同様。日本人はどこへ行ったのか？と心配になるくらい。スペイン坂も同様にほとんど外国人。

駆け足で銀座と都心山の手の繁華街を調査したが、海外インバウンドのパワーに驚くとともに、それぞれの街のまちづくりコンセプトが心配になった。海外インバウンドの勢いがいつまで続くのか？さらに増えるのか？減るのか？住民は？店舗の入れ替わりは？日本人客は戻るのか？区役所の仕事は？等、ここ数年での新たな課題に対応していくのは容易ではないと感じるとともに、危うさも感じた。基本的に日本人が来なくなった地域は衰退するような気がする。そうならないことを願う。

反面、受け入れ態勢整備は頑張っていると感じた。特に繁華街の清潔感。歌舞伎町も渋谷のセンター街も、昔は風紀が良くなかったが、ゴミもなくホームレスも存在せず、そのあたりの行政や商店街の努力には「日本らしさ」を見た思い。

犬山市への提言

- ・海外インバウンドを過剰に受け入れ始めると、街が創ってきた歴史や文化を自ら棄損してしまうリスクがある。
 - ・インバウンドブームが去った後のことは念頭に入れておく。
 - ・インバウンドの勢いに乗り遅れないよう、アンテナを高くしておく。
 - ・和テイスト、城下町テイスト、犬山オリジナルテイストを創り出し維持できるかがカギ。
 - ・名鉄との連携、駅から城下町へのアプローチも大切。
 - ・鵜飼は受け入れられるかの研究必要。
 - ・明治村、大縣神社、田県神社、間々観音等、近隣資源も取り込んで対応すべき。
- 上記ポイントを、各種祭、観光産業関係者に伝えていく。

○自治体公共フェア 2025

東京ビッグサイトで開催の展示会で情報収集した。
以下、カテゴリー別に分類して報告する。

○次世代モビリティ・地域移動

自治体公共フェア他、自治体ソリューションに対応する展示会は、毎年少しずつ出店トレンドに変化がみられるのが興味深いが、今年は、「公共交通」が大きな流れを作っていた。新時代のモビリティカーが何台も展示され、高齢化社会、低炭素社会に向けた提案で集客していた。中でもヤマハ発動機のモビリティは、移動速度こそ遅いが、私も加わっている高齢者の買い物支援にはちょうど良いかもしれない。住民移動の足として、春日井市が導入しており、こちらも研究したい。

犬山市とも取引のある可児市のトイファクトリーからは、可児市と共同開発の「MARU MOBI Lite」というブランドで、被災地などで活用可能な個室シェルター的な軽自動車の活用事例。後付けOKの仕様であり、犬山市の既存公用車にも応用可能。

オンデマンド、定額乗り合いタクシーの新提案もいくつか見られた。昨年度、総務委員会で地域公共交通をテーマとしてきたが、個人的にはオンデマンド交通には否定的だった。今展示会では、これまでのサービスを凌駕する新提案も見られた。今後、どのような新サービスが民間から提案されてくるのか楽しみ。

○メンタルヘルス

特殊な分野での出展に興味を持った。オンラインでメンタルヘルスをサポートする企業。子育て支援、孤立、引きこもり等、さまざまな課題に対応可能。上尾市、品川区、勝山市等が導入済み。精神科医、臨床心理士等がカウンセリングを行うサービス。引きこもり等、外へ出られない患者にもオンラインで対応できる強みを感じた。もちろん市職員へのメンタルヘルス相談サービスもOK。

○防災・災害時対応

防災DX、災害時避難所管理DX、その他サービスを展開しているポケットサイン社の総合的なアプリは良質のサービスが提供できそう。

昨今、災害時のトイレトレーラーが話題になったが、今展示会では、コインランドリーが出展されていた。トイレも洗濯機も広域で整備すべき。

災害時の避難所へのサイン、夜間の避難所へのサイン等の商品が名古屋の企業から出ている。近日中に訪問予定。

気象予報のウェザーニュース社の「自治体パック」「学校気象パック」は、職員の負担軽減に寄与する可能性大。引き続き研究する。

○環境

ゴミ収集車の効率化サービス「GOMIRUTO」という製品が日野自動車より出展、効率的なルート設定、車両のリアルタイム位置確認、収集物や量の見える化等が可能。犬山市のごみ収集は従来から随意契約が継続されている。例えばこのアプリの搭載を必須として入札にかければ、かなりのコストダウンが図れるのではないだろうか？ 来る新焼却場への移行に伴い、効率化は重大な課題。今から準備必要。

○多文化共生

外国人に限らず、優しい日本語で情報伝達するサービスは毎回散見されるが、今回は少なめだった。その中で、春日井市・豊田市が導入しているアルファサード社のサービスは研究の必要あり。

○デジタルアーカイブ

図書関係で、デジタルアーカイブのサービス、価格が下がってきているのかもしれない。今回はヴィアックス社という企業のサービスが出ていた。犬山市では展示されていない所蔵品が多くあると感じる。引き続き研究し、目の目を見ない所蔵品がオープンになるよう提案していく。

○業務改善・効率化

以前から市企画部に提案しているインフォマート社の会計業務効率化のサービスについて同社担当と情報交換。やはり犬山市の足並みは遅くて残念。引き続き導入に向けて提案をしていく。

ペーパーレス化の動きが鈍いと感じていたが、いくつかの企業が文書のペーパーレス、議事録のペーパーレス等を提案する会社が多数。同行の松藤氏によると、長野県原村は本会議議事録はじめ、かなりの効率化を研究、模索実現しているとのこと。いつか訪問して学び、犬山市役所にも提案していきたい。

福井銀行が地方銀行向けに、自治体の収納業務の効率化サービスを提案していた。犬山市は、施設、サービスによって納付書の書式が違っていたりで、効率的とは言い難い。その整備を実現させ、福井銀行の提案のような効率化につなげられればかなりなコストダウン可能。

○犬山市への提言

さまざまな自治体向けソリューションがあり、予算さえつければ、効率化、住民サービス向上に寄与する製品は多い。スクラップ＆ビルドで改善する意識を醸成し、時代に取り残されないようなサービス展開ができるよう、個別の案件を研究し提案していく。

以上